

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 58 号

発行日
2025.08. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○夏が終わる私の「夏の盛り」とは??

当然のことだが、季節は、それが来れば、確実に過ぎる！それが、自然の摂理というものであるが、今年もまた、「夏」が終わる？ただし、「ここ」の「夏」は、暦の上のそれだけではない！言わば、みなが織りなす「さわめき」のそれである！学校の長期休業、その間に行われる様々な行事・イベント(お盆に伴う帰省や各種旅行を含む)が、人々(とりわけ子ども達)の心の高揚を誘い、あたかも、国中が「熱き？夏」を享受している感を指す！私の場合は、さしずめ、娘3人達(その旦那や孫達を含む)の、束の間の帰省を指す??

とは言え、今年の私の夏は、複雑な日々であった?と云うのも、そうした夏のさわめきを、自らが前向きに受け止められなかった?もちろん、酷暑の所為でもあるが、身体的(精神的な部分もあるが!)に、それが出来なかったということである!!要は、以前みたいに、子ども達が帰ってきたら、あれをしよう、孫達には、あういうことをしてあげたいというよな気持ち(とりわけ孫達が望んでいた「釣り」の対応が、まったく出来なかった!往時は、毎年近くの海岸に出かけて、キス釣りにいっていた!あまり釣れなかったが!)、ほとんど生じなかった(否、最初から断念していた?)ということである!!

したがって、そういう意味では、私の「夏の盛り」は、最早過去のそれとなっているわけである!非常に残念ではあるが、それが事実であり、これからも、そうしたことは、余程の奇跡がない限り難しい!ちなみに、長女一家(5人)と次女が、高額ではあるが、釣り船をチャーターして沖釣りを行った(私は、それを遠くの岸から眺めるだけであった!)。大変な釣果であった!だが、まったく違った夏の光景であった!

○沖尚の優勝に想うーそこには、「沖繩の思い」が...

さて、そんな中、一方では、今年の夏は、久しぶりに、高校野球観戦が続いた(大半は、パソコンでの視聴であったが!)。その理由は、もちろん、沖繩代表の沖繩尚学の快進撃にあるが、終盤は、どの試合も、驚くほど接戦が続き(レベルが高い!)、元高校球児としては、彼我の違いを、まざまざと見せつけられるような気もした!本当に凄いものである(ただ単に、当時の私達が、ショボかっただけかもしれないが?)!

だが、それはともかく、夏の大会での、沖繩尚学の優勝は初めてである(過去、同じ私立の興南高校が、春夏連覇をしているが!)。それもあってか、マスコミ報道では、県内全体が、その瞬間を(その後も!)、それこそ一つ一つになって喜んだということである(テレビ視聴率は、何と50%を超えていたそうである!)。事程左様に、沖繩は、高校野球が盛んなところであるが(ただし、その部員数自体は、かなり減っているらしいが!)、こと甲子園の大会は、それこそどのチームが出場していても、その応援は凄まじいのである!その理由は、果たして何か?

これに関して、今日(26日)のネット情報には、その「沖繩の甲子園応援の熱情?」について、少し深掘りしたものがあつた!詳しいことは書けないが、やはり、そこには、「沖繩の思い」が大いに関わっている!沖繩は、今や決して辺境の、そして特別な扱いを受けるところではなく、堂々と本土と渡り合える(それ以上?)というアピールである?そして、それは、既に実現している!その実感(喜び?)が、そうさせているのであろう!!

○35年前の若者達と、今もなお会える(飲み合える)喜び!

ところで、過日(23日)、大学の教え子一期生との飲み会?と呼ばれて、とても嬉しい、そして楽しい時間を過ごしてもらった!この集まりは、沖繩特有の「模合」という形で、彼らが若い頃は、結構頻りにやっていたものである!私も、何故かそれについても呼んでもらっていたが、近年は、それもなくなり(ある意味当然だが?)、少し寂しい思いもしていた!ただし、まったくなくなったわけでもなく、最近、また、その回数も増えているようである?だが、それは、最早「模合」という形ではない!単なる飲み会と言えはそれまでだが、それぞれ少し人生に余裕が出て来た?そして、50歳を過ぎ、大学での仲間との付き合いを大切にしたいという思いが、そこにはあるのかもしれない!!

とは言え、それぞれ、厳しい人生を歩んできたことは、想像に難くない(本当に苦しかった者も、少なからずいる!)?また、私より先に逝ってしまった者もいる(17人?中3人も!)!そんな中、一昨年は、私の文部科学大臣表彰に際して、わざわざ集まってくれて、しかも見事な額縁(表彰状入れ)を、みんなで金を出して作り(特注、私の書齋に飾ってくれている!そんなこんなで、改めて思い出に、私の大学教員への内なる就職動機は、そうした若者との出会いと交流を願ひ、彼らと一緒に学園生活を共にすることであった!自らの学生生活が、そうした内なる思いを抱かせたわけだが、かなり時間も経つたが、その願いが叶ったのが、実は琉球大学であったということである!

余計な事だが、こうした再会の機会が、あと何回くらいあるのかは、それこそ神のみぞ知るであるが、今の私の密かな願ひは(図々しいかもしれないが?)、彼らと、少なくとも一時間以上、一対一で対談?をすることである!そして、実は、そのことを、今回の席上、彼らに告げてしまった!半分は、アルコールの所為であるが、そう告げたのである!彼らが、卒業後、どのような人生を歩んだのか、そして、その人生(もちろん仕事のことも含めて!)を、今、自らが、どのように見つめているのか?そうしたことを聞きたいのである!とんでもないお節介であるが、それが、私の、これからの締め?とも言えるのかもしれない? (井上)

○初めて見た？国会の○○委員会審議！

おそらく、通常の、国会（衆議院）の委員会審議を見たのは、今回が初めてであろう（テレビで紹介される、例えば予算委員会の光景は別として）！全体（常任委員会）で17種類あるようであるが、今回見たのは、その内の「文部科学委員会」である！実は、これは、ある知人（現在、F県選出の衆議院議員）の動画サイト（彼の国会議員としての活動を紹介・アピールするためのもの）からであるが、期せずして、彼が属している委員会の一端を示すものでもあるわけである。

N県の山村地帯で、長年青少年の体験活動を通じて、いわゆる「ひとづくりとまちづくりの好循環づくり」（奇跡のむら」ともされる）を実践、先導してきた彼であるが、故あって、実家のF県に戻り、その成果と思いを、新たな議員活動の中で、鋭意前進させようとしている姿が、ひしひしと伝わるような光景であった！もちろん、それは、議員としての、彼の活動アピールのツールではあるの、あまり深く詮索するつもりはないが、彼の用意した、幾つかの資料（学校教育、社会教育の双方を網羅した）は、具体的には見ることは出来なかつたが、答弁する大臣や関係部長にとっては、それなりの説得力があつたように思われる！新しいタイプ（手ごわい）の議員と、おそらく思われたであろう？！

ただし、そのやり取りは、いつものように？機械的で、いかにもお役所な対応であつたことは否めない？それが、国会（議会）と、とりわけ、そこにおける「各種委員会」の、普通の光景なのであるが、見る側にとっては、あまり面白くない？だから、余程の案件でもない、マスコミも注目しない？特に、この「教育科学委員会」では？それはともかく、こうした地道なやり取り（審議）の下に、それぞれの重要案件が、積み重ねていられるわけである？その意味では、ここから「勝負」が始まるのである？彼には、改めて頑張つて欲しい（妙な国会文化？にめげるな）！

○気になる「新聞記事」を見た！奇異？華美？

ある意味では、表面の記事（沖繩尚学の優勝関係）に連なることであるが、本日（27日）、新聞紙上で、気になることを見つけた！詳しいことは書けないが、何でも、応援団の恰好（沖繩の伝統芸能「エイサー」の盛り立て役「チョンダラ学委員会」である！実は、これは、ある知人（現在、F県選出の衆議院議員）の動画サイト（彼の国会議員としての活動を紹介・アピールするためのもの）からであるが、期せずして、彼が属している委員会の一端を示すものでもあるわけである。

異「華美」という判断基準があるということであつた！一応、「教育」という要素が、そこにはあるわけであるので、分からなくもないが、何をもち「奇異」「華美」とするの？しかも、ここでは、エイサーの演舞自体？も、既に禁止されていたらしく、沖繩では、例の「差別・偏見」問題と絡んで、新たな物議を醸すかもしれない？ここで確認しておきたいことは、「奇異」や「華美」という判断要素が、無意識に（そうだと信じる）、差別や偏見の要素を孕んでいるかもしれないということである？！

＜短歌に託して！もう一つの夏は着実に終わります！＞
・夏が終わる？ それは暦の上ではない！
・夏が織りなす さわめきのそれである！

・「おきなわ」の魂を 求めしものは
存分にアピールできること！！ その場が甲子園？

・今なお続く、若者達との付き合い
思えばそのために 大学教員となつた我！！

・初めて見た！ 国会の○○委員会！
華やかではないが 勝負はここからなのであろう！！

・奇異？華美？ だがそこには
差別・偏見も同居？ まずは知ることである！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕58＜

〇二〇からは、九州での隠れた実績を追つてその131。まだまだ、熊襲や海部氏について追及したいが、ここでは、別の話題として、大分県日田市の小泊江原（おぼり）遺跡のことを取り上げておきたい！前にも述べたとは思つが、同遺跡は、日田市の北部高台にあり、3世紀前後の環壕居館跡があり（遺跡そのものは、旧石器時代から縄文時代期まで続いている）、そこには、近畿や出雲の土器等が埋もれていたという！実は、この日田は、筑後川の上流にあり、九州（筑紫野 邪馬台国）を攻めるには絶好の地であり、その遺跡と、そこに通ずる（山国川を介した）東の玄関口？宇佐・中津の関わりも大いにありたいところである！邪馬台国が消えた？後は、その居館跡はなくなり（自主的に壊された形跡あり）、その役割を終えた場所ともされる？！

そこで、もしそうなら、かの卑弥呼の宗女台身は、何らかの形で、その日田勢力（近畿・出雲の出勢力）とつながりがあつたとも考えられる！！
難升米が旧倭国（帥升米系統）の代表（ひよつとすると「大率」）、卑弥呼が、吉野ヶ里等を攻めた「手焙形土器・前方後方墳勢力」、つまり和珥ヶ族、その一族の多氏だつたのではないかと！そして、多氏が、実は、邪馬台国連合の盟主となつていたということでもある（だから、大乱 後、卑弥呼が共立女王となつた）！すなわち、これについては、これも前にも述べたように、3世紀前後、吉野ヶ里（旧倭国）そして、そこにおける「環壕居館勢力」の「大拠点」が、手焙形土器／前方後方墳勢力に滅ぼされている！

だといふことであれば、盟主 魏倭王 国「邪馬台国」は、新たな別の勢力によって滅ぼされたか、あるいは、その政権中枢が、その勢力の意のままになつた？ということではないか？！そして、その勢力の意が、宗女台身とあれば、その新たな勢力とは何か？考えられるのは、後に「神功皇后」説話となる「新羅」や「多羅」や「島長氏」や「天日尊」の勢力である？！そこに、かの「武内宿禰」諸族がどのように絡まっているのかは、まだまだ不分明ではあるが、その「状況証拠」が、これまた、かの「高良大社」周辺の状況であることは間違いないであろう？！（つづく）（堂本）

（編集後記）8月も、あと一日で終わる！9月病？も心配であるが、社会（否、世界）全体が、どのように動いていくか？そこが、心配でもある！でも、月日は過ぎ行く！（井上／堂本）